廃 棄 物 実 態 調 査 票 の 記 入 要 領 ・ 記 入 例

実 態 調 査 票 【 そ の １ 】 の 記 入 例

※この資料には、調査票の具体的な記入例が記載してあります。

※自社で発生した廃棄物すべてが対象となります。再生利用、売却をしている場合も記入してください。

※ご提出いただいた調査票の記入内容について、電話等により確認させていただく場合もありますので、必ず調査票の控えをとっておいていただきますようお願いいたします。

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票【その１】を記入してください。

事業所の概要	事業所名	***㈱△△△熊谷工場***			事業内容	（具体的に） **△△の製造**
	所在地	***熊谷市〇〇 - △△ - □□***				
	代表者氏名	***埼玉　太郎***	記入者（部課、氏名）ふりがな	***〇〇部〇〇課*** ***埼玉（さいたま）　花子（はなこ）***		（主要製品又は商品） **××製品**
	記入年月日	***令和６年△月〇日***	電話番号	***123－456－7890***		

事業の概要	従業者数	製造品出荷額等（製造業のみ記入）	事業所の形態
	貴事業所の現在の従業者数（パート等の臨時職員及び役員等を含む）を記入してください。 1000 人	令和5年1月1日から12月31日までの1年間の額を記入してください。 千億 百億 十億 億 千万 百万 十万 万 （1000000万円/年）	貴事業所の形態に対する番号に〇を付けてください。 1．工場・作業所・鉱業所 2．開発研究のみ 3．事業所のみ 4．その他（　　）

「製造品出荷額等」の記入について
1. 製造業の場合のみ記入してください。
2. 製造品出荷額等とは「製造品出荷額、加工賃収入額、修理料収入額」等の合計です。（不明な場合は売上高を記入してください）
3. ただし、調査票が送付された事業所が本社事務のみ、営業所等で実際に製造、加工、修理等を行っていない場合は「0(ゼロ)」を記入してください。

令和5年度の1年間に廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）は発生しましたか。該当する番号に〇を付けてください。

① 発生した。
２．発生しなかった。

上記の「事業所の概要」、「事業の概要」を記入の上、ご返送ください。

貴事業所から発生した廃棄物を事業所内で焼却していますか。

１．焼却している（熱利用していない）
② 焼却している（熱利用している）
①熱利用（乾燥，給湯，暖房，冷房等）
②発電
③その他〔　　〕
０．焼却していない

貴事業所から発生した廃棄物を事業所内で脱水していますか。

① 脱水している。
０．脱水していない。

※調査票【その２】に貴事業所から発生する廃棄物等の状況について、記入してください。

実 態 調 査 票 【 そ の ２ 】 の 記 入 要 領 フ ロ ー シ ー ト

廃棄物の種類、分類番号、年間発生量とその単位を調査票の①、②、③に記入してください。
別紙「廃棄物分類表」参照。

有償物

- 自社で中間処理せず売却、再利用した。 — Yes → ⑥に自社なら「Ｖ１」、自社以外なら「Ｗ１」と記入。売却・再利用した相手先の名称及び所在地などを⑦、⑨に記入し、その用途を⑫に記入してください。
- No ↓

自社処理　処分

- 自社で中間処理（焼却・中和・脱水・破砕などの処理）を行った。 — Yes → 中間処理の方法を処理した順に④に記入し、処理後の量を⑤に記入してください。《次の設問へ進む》
- No ↓
- 自社で保管しており、まだ処分していない。 — Yes → ⑥に「Ｚ１」と記入し、保管場所などを⑦、⑨に記入してください。
- No ↓
- 自社で再生利用・埋立処分している。 — Yes → ⑥に自社再生利用ならば「Ｖ１」、自社処分場に埋立処分ならば「Ｑ１」と記入。再生利用または処分場の所在地などを⑦、⑨に記入し、再生利用している場合は⑫にその用途を、それぞれ記入してください。
- No ↓

委託処理　処分

- 中間処理業者に中間処理を委託している。 — Yes → ⑥に「Ｕ１」と記入。中間処理業者名、許可番号、所在地などを⑦、⑧、⑨に、中間処理方法を処理した順に⑩に記入してください。《下の設問へ進む》
  - 中間処理後、最終処分している。 — Yes → ⑪に「埋立処分（海洋投入）している」の「２」を記入してください。
  - No → ⑪に「再生利用・リサイクルしている」の「１」を選択し、⑫にその用途の番号を記入してください。
- No ↓
- 最終処分業者に委託し、最終処分している。 — Yes → ⑥に「Ｓ１」と記入。埋立処分については、最終処分業者、許可番号、所在地などを⑦、⑧、⑨に記入してください。海洋投入処分については、処分業者、許可業者、積み出し港の所在地などを⑦、⑧、⑨に記入してください。
- No ↓
- 市町村に委託している。 — Yes → ⑥に焼却なら「Ｒ５」、埋立処分なら「Ｒ１」、リサイクルなら「Ｒ６」と記入。施設の所在地などを⑦、⑨に記入し、⑥が「Ｒ６」なら⑫にその用途を、記入してください。
- No ↓
- 再生資源（廃品回収）業者、納入業者、関連企業などで再生処理した。 — Yes → ⑥に「Ｘ１」と記入。相手先名と所在地などを⑦、⑨に記入し、⑫にその用途を記入してください。
- No ↓
- もう一度はじめからやり直してみてください。 — やり直した → 廃棄物実態調査票【その２】にある「⑥.処理・処分方法コード表」のその他〉「Ｚ９」を⑥に、〔 〕に具体的な処理・処分方法を、所有者、処理先、所在地などを⑦、⑨に記入してください。

実 態 調 査 票 【 そ の ２ 】 の 記 入 例

調査対象期間

●この調査の対象期間は、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）の発生と処理・処分の状況を質問①～⑫までの流れにしたがって記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

●この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）だけが記入の対象となります。
●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「廃棄物分類表」を掲げてありますので参考にしてください。

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答えください。

〇自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Ｅを参考にしてください）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。したがって「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

〇自社で脱水している場合の発生した廃棄物とは脱水前のものです。（記入例Ｆを参考にしてください）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された１年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式により計算してください。
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100%－脱水後の含水率%）÷（100%－脱水前の含水率%）

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
〇廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。→中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
〇含油廃水を油水分離した場合。→油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ１行ずつを）発生量とします。

記入について

●同じ種類でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。

●発生量等をkg（キログラム）又は、t（トン）以外の単位で把握している場合は、できる限り換算して記入してください。また、個数や本数の場合も１個当たりの重量等より換算してください。

●処理業者等へ処理・処分を委託していて不明な点は、具体的な内容を業者に確認したうえで記入してください。

④中間処理方法コード表
Ａ：焼却
Ｂ：脱水
Ｃ：天日乾燥
Ｄ：機械乾燥
Ｅ：油水分離
Ｆ：中和
Ｇ：破砕
Ｈ：分級
Ｉ：圧縮
Ｊ：溶融
Ｋ：切断
Ｌ：焼成
Ｍ：堆肥化
Ｎ：銀回収
Ｏ：ｺﾝｸﾘｰﾄ固型化
Ｐ：金属（鉄）回収
Ｑ：非鉄金属回収
Ｒ：濃縮
Ｓ：油化
Ｔ：ばい焼
Ｕ：洗浄
Ｖ：分解
Ｚ：その他

⑥処理・処分方法コード表
〈自己処理〉
Ｑ１：自社の処分場で埋立処分した。
Ｖ１：自社再利用した。
Ｗ１：売却（利益があった）した。
Ｚ１：自社で保管している。

〈産業廃棄物処理業者等（他社）で処理〉
Ｓ１：処理業者の処分場で直接埋立処理（海洋投入）した。
Ｓ２：埼玉県環境整備センターで直接埋立処分した。
Ｕ１：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。
Ｘ１：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。

〈市町村で処理〉
Ｒ１：市町村等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。
Ｒ５：市町村の清掃工場で処理した。（ごみ収集を含む）
Ｒ６：市町村の清掃工場でリサイクルした。

〈その他〉
Ｚ９：その他

⑩中間処理方法コード表
Ａ：焼却
Ｂ：脱水
Ｃ：天日乾燥
Ｄ：機械乾燥
Ｅ：油水分離
Ｆ：中和
Ｇ：破砕
Ｈ：分級
Ｉ：圧縮
Ｊ：溶融
Ｋ：切断
Ｌ：焼成
Ｍ：堆肥化
Ｎ：銀回収
Ｏ：ｺﾝｸﾘｰﾄ固型化
Ｐ：金属（鉄）回収
Ｑ：非鉄金属回収
Ｒ：濃縮
Ｓ：油化
Ｔ：ばい焼
Ｕ：洗浄
Ｖ：分解
Ｚ：その他

⑫資源化用途コード表
１０：鉄鋼原料
２０：非鉄金属等原材料
３０：燃料
４１：飼料
４２：肥料
４３：土壌改良材
５０：建設材料
６０：パルプ・紙原材料
７０：ガラス原材料
８０：プラスチック原材料
８１：再生タイヤ
９０：セメント原材料
９１：再生油・再生溶剤
９２：中和剤
９３：高炉還元
９８：その他

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票【その２】を記入してください。

別紙「廃棄物分類表」を参照してください。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が１kg未満の場合は、「０（ゼロ）」を記入してください。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

地域番号は別紙「地域番号表」を参照してください。

⑪処理後の処分方法
１再利用・再生利用している
２埋立処分（海洋投入）している

	区分 E2	行番	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量 百万 十万 万 千 百 十 一 単位	④方法番号 1次処理	2次処理	3次処理	⑤中間処理後量 百万 十万 万 千 百 十 一 単位	⑥処理・処分の方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等		⑧委託処理業者の許可番号	⑨処理・処分先又は再生利用先の所在地 所在地	地域番号	⑩方法番号 1次処理	2次処理	3次処理	⑪処理後の処分方法	⑫資源化用途
記入例：A	記入欄	1	***事務所ごみ***	***6 0 0 0***	***5 0 0*** kg				t kg	***R 5***	***熊谷市***	***(0000) 00 -000***		都道府県 ***熊谷*** 市町村	***1 0 3***				1・2	
記入例：B		2	***鉄板くず***	***1 2 1 0***	***1 0 0*** t kg				t kg	***W 1***	***(株)××***	***(0000) 00 -000***		都道府県 ***熊谷*** 市町村	***1 0 3***				1・2	***10***
		3	***鉄板くず***	***1 2 1 0***	***5 0*** t kg				t kg	***W 1***	***(有)〇〇***	***(0000) 00 -000***		群馬 都道府県 ***前橋*** 市町村	***1 0***				1・2	***10***
記入例：C		4	***機械油***	***0 3 1 1***	***1 0 8 0*** kg				t kg	***U 1***	***××商店***	***(0000) 00 -000***	***×××××××××××***	都道府県 ***秩父*** 市町村	***1 0 6***	***E***			1・2	***30***
記入例：D		5	***生ごみ***	***1 0 0 3***	***1 0*** t kg				t kg	***U 1***	***〇〇(株)***	***(0000) 00 -000***	***×××××××××××***	都道府県 ***本庄*** 市町村	***1 1 0***	***M***			1・2	***42***
記入例：E		6	***木くず（かんなくず）***	***0 8 1 4***	***1 0*** t kg	***A***			***5 0 0*** kg	***Q 1***	***自社***	***(0000) 00 -000***		都道府県 ***東松山*** 市町村	***1 1 1***				1・2	
記入例：F		7	***排水処理汚泥***	***0 2 2 1***	***5 0*** t kg	***B***			***1 0*** t kg			( ) —		都道府県 市町村					1・2	
		8			t kg		***A***		***5 0 0*** kg	***S 1***	***××(株)***	***(0000) 00 -000***	***×××××××××××***	福島 都道府県 ***いわき*** 市町村	***0 7***				1・2	
記入例：G		9	***金属表面処理汚泥***	***0 2 2 9***	***1 0*** t kg				t kg	***U 1***	***△△産業***	***(0000) 00 -000***	***×××××××××××***	都道府県 ***川口*** 市町村	***1 0 4***	***F***	***Z*** 無害化		1・2	

記入例：Ａ

・事務所でのごみが１日２ｋｇ程度発生する。

・年間で５００ｋｇ程度である。

・これは熊谷市の清掃センターへ直接搬入している。

記入例：Ｂ

・鉄板の加工の際に鉄板くずが年間１５０ｔ発生した。

・このうち、１００ｔを熊谷市にある(株)××に売却した。

・残りの５０ｔを群馬県前橋市にある（有）〇〇に売却した。

・相手先では鉄鋼材料として利用している。

記入例：Ｃ

・月平均一斗缶５本ぐらいの機械油が発生した。
・重量換算すると年間に１，０８０ｋｇである。

計算式
18kg × 5本 × 12ヶ月

・これは、秩父市の再生業者××商店に処理を有料で依頼した。
・相手先では、油水分離後、燃料として再利用している。

記入例：Ｄ

・食堂から残飯が年間１０ｔ発生する。

・これは、本庄市の〇〇(株)に委託した。

・委託先では、堆肥化し、肥料として再生利用している。

記入例：Ｅ

・木くず（かんなくず）が年間１０ｔ発生した。

・自社の焼却炉ですべて焼却した。

・焼却灰は、５００ｋｇ程度で自社の処分場（東松山市）で埋立処分した。

記入例：Ｆ

・排水処理汚泥が発生した。
・自社の施設で脱水→焼却を行い、脱水後の残さが１０ｔ（含水率８５%）、焼却後の残さが５００ｋｇであった。
・脱水前の量は、計算していないので正確ではないが、脱水前の含水率が９７%であるため計算すると、５０ｔ程度となる。

計算式　10t×(100-85)÷(100-97)＝50t

・焼却灰は、△△(株)に運搬を委託し、福島県いわき市に処分場を有する××(株)で直接埋立処分した。

記入例：Ｇ

・特定有害汚泥が１０ｔ発生した。

・自社での中間処理を行わず、川口市に処理施設を保有する△△産業に収集・運搬及び中間処理を委託した。

・業者では、中和及び無害化処理した後、埋立処分している。